

第3期ロジスティクス環境会議

第1回本会議

2008年7月31日(木)14:00～16:00

ホテルニューオータニ 地下1F 麗の間

次 第

1. 開 会

2. 議長挨拶

3. 第1期からの活動の変遷

4. 議 事

1) 概要と運営体制について

(1) 概要と運営体制について

(2) グリーン物流研究会

(3) 包装の適正化推進委員会

(4) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

(5) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG

2) 情報提供活動について

3) 2008年度収支予算について

4) 今後のスケジュールについて

5. 行政施策動向の紹介

6. 閉 会

1) 副議長挨拶

以 上

ロジスティクス環境会議設立までの経緯

社団法人日本ロジスティクスシステム協会（略称、J I L S）では、会員企業を中心として、企業経営と社会システムの重要な機能である物流の高度化、効率化を全体最適なロジスティクスの視点から支援するため、普及啓発、教育、調査等の活動を行ってきた。

環境問題に対しては、下記のとおり 1997 年より活動を展開した後、2003 年 11 月にロジスティクス環境会議を設立した。

1. ロジスティクスにおける環境問題研究委員会の設置（第1期：1997年～1998年）
2. 「ロジスティクスにおける環境問題研究報告書」の発行（1998年10月）
3. ロジスティクス環境マネジメント調査（LEMS）の開始（1999年～2005年、2008年）
4. ロジスティクスにおける環境問題と企業活動シンポジウムの開催（1999年2月）
5. ロジスティクスにおける環境問題研究委員会の設置（第2期：2001年～2003年）
6. 「21世紀のロジスティクス コンセプト」の発表（2001年10月）
 - 1) 経済活動とロジスティクスのグローバル化
 - 2) より上位の最適化の追求
 - 3) 地球環境と地域社会環境への調和**
 - 4) 21世紀のロジスティクスシステム
 - 5) 理念と目的の達成に向けて
 - 6) 産業界が取り組むべき課題と展望
7. 「創立10周年宣言」の発表（2002年6月）
 - 1) 全体最適の需要と供給を支援するロジスティクスシステムの構築
 - 2) 環境と調和したロジスティクス活動の実現**
 - 3) 情報通信技術をはじめとするロジスティクスイノベーションの推進
 - 4) 適切なロジスティクス情報の発信と情報交流活動の強化
 - 5) ロジスティクス人材の育成と快適な労働環境整備
8. ロジスティクス環境会議設立準備委員会の設置（2003年）
9. ロジスティクス環境会議の設立（2003年11月13日～）
 - 1) 第1期活動（2003年11月～2006年3月）
http://www.logistics.or.jp/green/report/06_report.html
 - 2) 第2期活動（2006年8月～2008年3月）
http://www.logistics.or.jp/green/report/07_report.html

以上

ロジスティクス環境会議

設立趣意書

地球温暖化や大気汚染、廃棄物等の環境問題を解決し、次世代に健全な地球環境と社会環境を継承するためには、これまでの大量消費型の社会から、循環型社会への転換が強く求められております。

経済活動における環境負荷を低減するためには、個人の意識改革を促すと同時に、企業の社会的責任において、継続的にそれを実現する仕組みを構築する必要があります。

そのためには、ストックとフローを最適化するロジスティクスの視点から、設計・開発・製造・販売・物流の仕組みを横断的に見直さなければなりません。また、日常の物流諸活動においても、源流段階から環境負荷の低減を考慮すると共に、使用後の適切な処理と円滑な再使用ないし再生使用を図るべきです。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会は、1997年からロジスティクスにおける環境問題の研究・調査を重ねて参りました。2001年には、『21世紀のロジスティクス コンセプト』の中で、「地球環境と地域社会環境への調和」を提唱し、2002年の『創立10周年宣言』では、「環境と調和したロジスティクス活動の実現」をミッションの一つとして定めました。

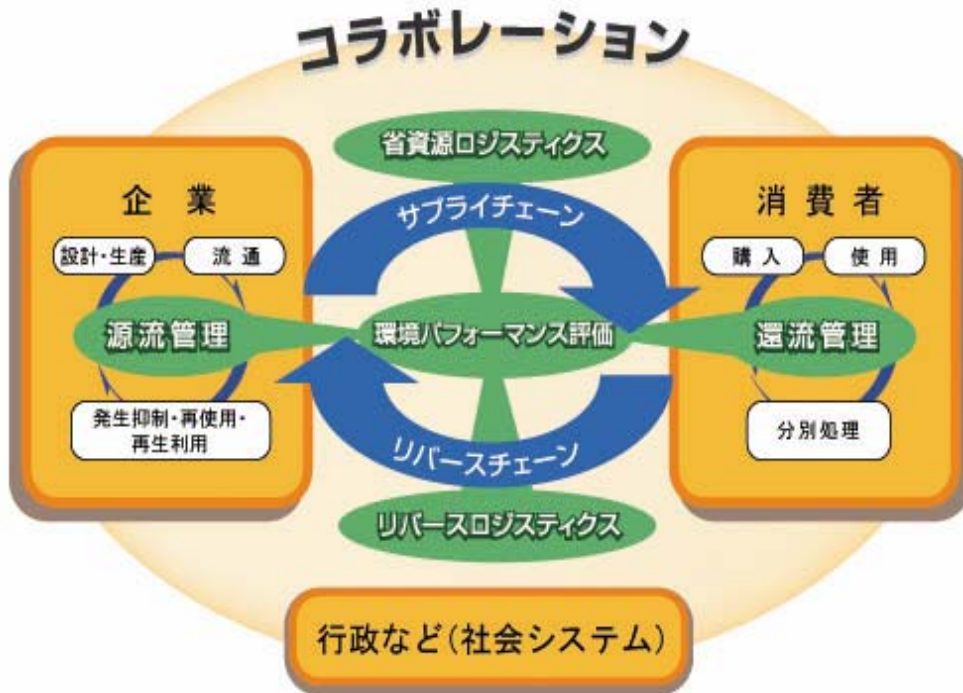
その活動の蓄積を基盤として、企業や業界の枠を越えて、産業界が行政や学界等と共同し、国際的にも評価され得る環境と調和した循環型社会の体系的なロジスティクスシステムを構築し、その普及啓発を図ることを目的として、ここに「ロジスティクス環境会議」を設立します。

2003年 11月13日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境会議

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型社会における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

（第 1 期 第 1 回本会議／2003 年 11 月 13 日）

「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

(第 1 期 第 4 回本会議/2006 年 3 月 15 日)

**第3期 ロジスティクス環境会議
議長、副議長について**

【議長】

三村 明夫 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会長
(新日本製鐵株式会社 代表取締役会長)

【副議長】

岡部 正彦 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 副会長
(日本通運株式会社 代表取締役会長)

鈴木 敏文 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 副会長
(株式会社イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 第1回本会議

第1期からの活動の変遷

2008年7月31日

ロジスティクス環境会議

企画運営委員会

副委員長

増井 忠幸

1. 第1期からの活動の変遷

1. 第1期からの活動の変遷と第3期活動のイメージ

第1期:2003年11月～2006年3月

環境負荷低減活動に「取り組む企業」を増やすための基盤整備活動の展開

＜主な成果物＞

- ・二酸化炭素排出量算定ガイド
- ・モーダルシフト推進チェックリスト/資料集
- ・省資源ロジスティクス事例集
- ・取引条件の見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書
- ・リバーズロジスティクス調査報告書
- ・企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査 他
- ・省エネ法判断基準への意見・要望書提出
- ・「ロジスティクス環境宣言」の採択
- ・グリーン物流P会議との連携

第2期:2006年8月～2008年3月

物流分野におけるCO₂削減をテーマとし、環境宣言実現に向けた取り組みを展開

＜主な成果物＞

- ・グリーンロジスティクスガイド
- ・鉄道へのモーダルシフト実施/拡大のためにクリアしなければならない課題と対応事例
- ・エコドライブ推進ガイド
- ・取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト
- ・改正省エネ法への意見・要望書提出
- ・鉄道へのモーダルシフト促進のための要望書提出
- ・グリーン物流P会議との連携

第3期:2008年5月～2010年3月

持続可能社会実現に向けた取組の展開

＜検討テーマの例＞

- ・包装の適正化による環境負荷低減推進
- ・環境負荷と経済効率を考慮した取引条件のあり方の検討
- ・改善施策の研究
- ・省エネ法の定期報告書等の集計
- ・ブランドデザインの改訂 等

取り組む企業を増やす活動の推進

＜第1、2期成果物等の普及＞

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査を通じた啓発活動
- ・グリーンロジスティクスガイド等の第1、2期成果物の普及
- ・グリーン物流P会議との連携
- ・その他

【企業メンバーの意向】

＜環境対応に関する誤解＞

- ・コストアップ要因との誤解
- ・物流事業者だけで取り組むべきこととの誤解

＜取り組むためのツール等の不足＞

- ・CO₂等の環境パフォーマンス算定方法
- ・環境負荷低減施策に関する情報不足

【外部環境】

＜京都議定書の発効＞

＜行政施策等の推進＞

- ・総合物流施策大綱(2005-2009)の閣議決定
- ・改正省エネ法の施行
- ・グリーン物流P会議の発足
- ・物流総合効率化法の施行

【企業メンバーの意向】

＜省エネ法対応方策等に関するニーズ＞

- ・エネルギー使用量算定方法
- ・省エネ計画の策定
- ・削減施策推進に向けた異業種メンバーとの検討

【外部環境】

＜21世紀環境立国戦略＞

- ・持続可能な社会に向けた取組

＜京都議定書国際公約達成に向けて＞

- ・京都議定書目標達成計画の改定

【企業メンバーの意向及び外部環境】

＜環境意識の高まり＞

- ・京都議定書第1約束期間の開始
- ・G8北海道洞爺湖サミット

＜原油、各種資源、食糧等高騰＞

- ・コストダウン(コストアップの抑制)に向けて、限りある資源を有効に使うための他部門、他社との連携のさらなる推進

2. 第2期活動について

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

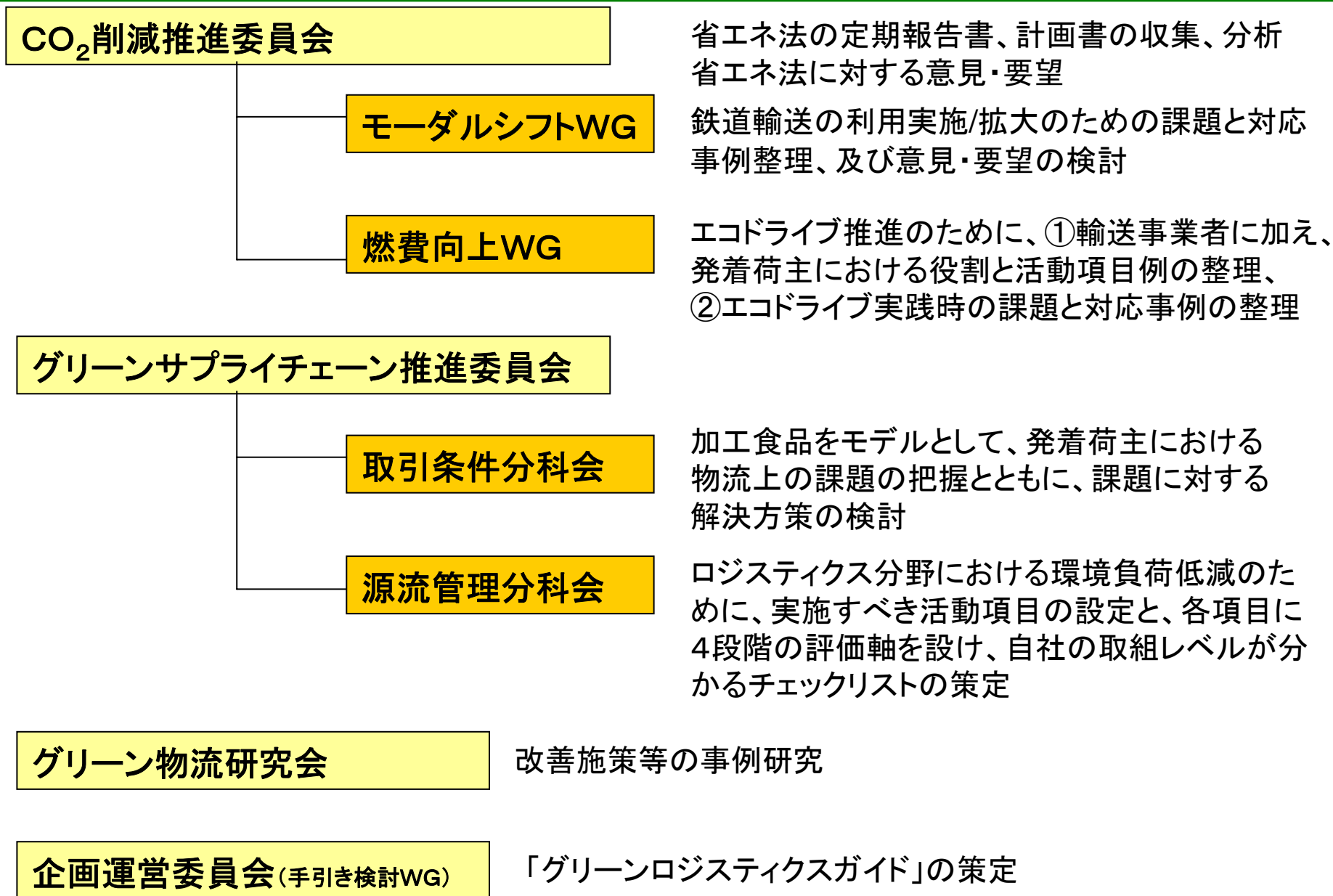
関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に 寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

(2005年3月15日 第1期ロジスティクス環境会議 第4回本会議で採択)

2-2. 第2期環境会議の組織及び検討内容



2-3. 第2期活動の実績～その1～

- 1) 物流分野におけるCO₂削減に焦点をあてた活動の推進

＜主な成果物＞

- ・モーダルシフト推進に向けた事例集/意見・要望
- ・エコドライブ推進ガイド
—輸送事業者と発・着荷主の連携—
- ・取引条件を考慮した環境負荷低減施策の提案
—加工食品をモデルとして—
- ・グリーン物流研究会による改善施策の研究

- 2)「取り組む企業を増やす」ための活動の展開

<主な成果物>

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト
- ・グリーンロジスティクスガイド



⇒環境宣言第2項の実現に向けた活動

- 3)「循環型社会の形成に向けた情報発信」の実践

＜主な成果物＞

- ・省エネ法に対する意見・要望
- ・鉄道へのモーダルシフト促進のための要望

⇒環境宣言第3項の実現に向けた活動

・ 4) 参加メンバーの連携による活動の推進

組織	特徴
グリーンサプライチェーン 推進委員会 取引条件分科会	実際に取引のある発・着荷主メンバーによる検討、及び双方のデータ提供による実態把握
CO ₂ 削減推進委員会 モーダルシフトWG	発荷主、利用運送事業者による検討
CO ₂ 削減推進委員会 燃費向上WG	実運送事業者への働きかけを意識した発荷主、物流事業者による検討
グリーンサプライチェーン 推進委員会 源流管理分科会	自主勉強会開催等によるメンバー間の人的交流による情報交流の活発化

3. 第3期活動の方向性

3-1. 我々の直面している課題

地球温暖化問題

- ・人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題の一つ
- ・地球温暖化による悪影響は顕在化しており、今後の気温上昇により、より重大な影響が様々な分野や地域で生じることが予測
- ・我が国における2006年度の温室効果ガス排出量は、13億4000万t-CO₂であり、京都議定書基準年から6.2%増加

廃棄物問題

- ・大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済社会活動の結果、我が国では、毎年約4億7千万トンもの膨大な廃棄物の発生
- ・廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正処理による環境負荷増大、最終処分場の残余容量の逼迫等といった様々な局面で深刻な状況が継続
- ・さらに、開発途上国における廃棄物問題の深刻化（全世界で2050年には、2000年の2倍の廃棄物量との試算有）

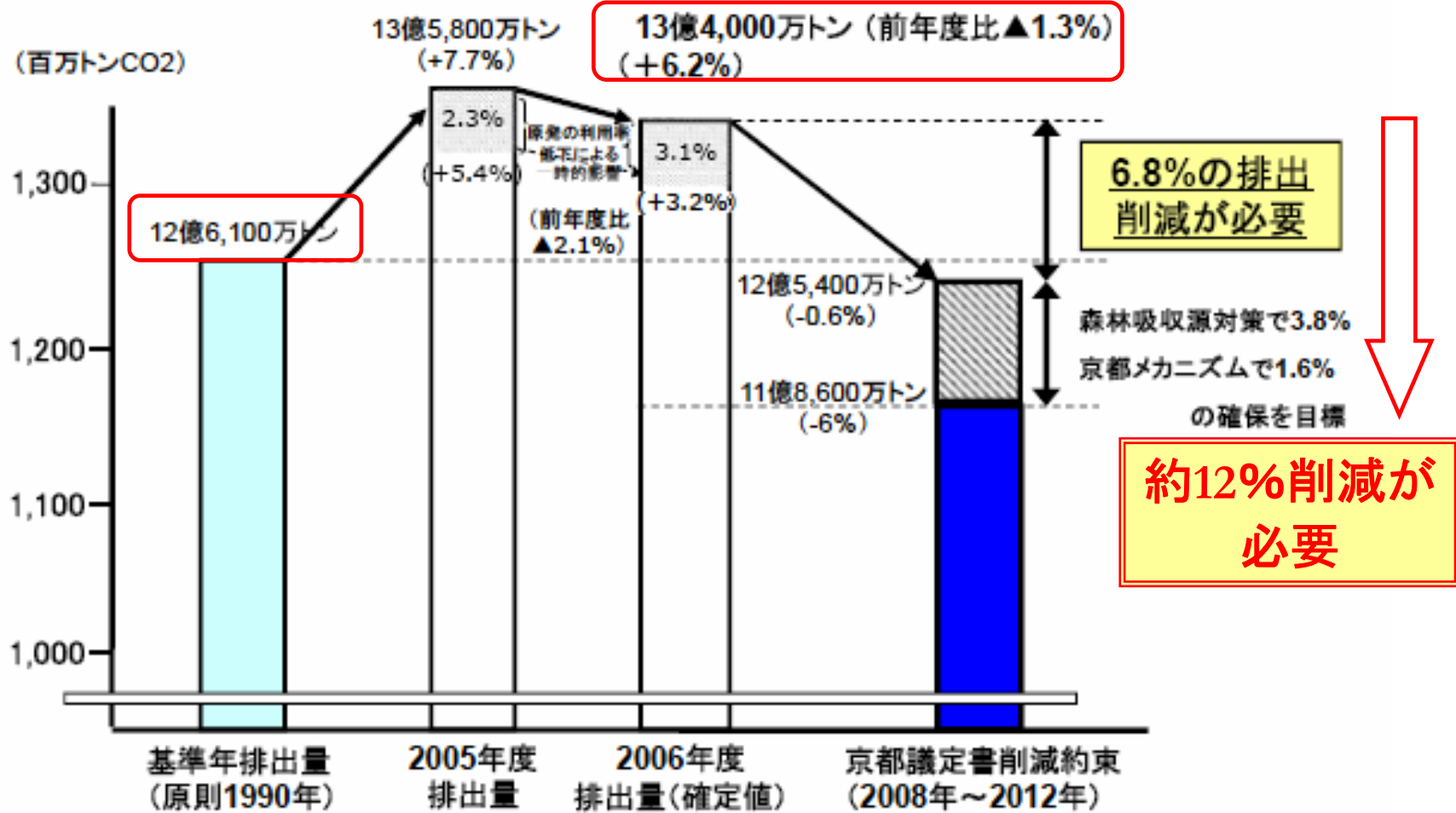
原油・食糧等の高騰

- ・原油については、2004年以降、一層の上昇傾向。需給バランスに加えて、投機マネーの原油市場への流入の影響
- ・農産物についても、小麦、とうもろこし、大豆が2006年秋より高騰し、それぞれ2008年に史上最高値を更新。開発途上国の需要増大に加え、バイオ燃料需要増大、気候変動の影響といった中長期に継続する構造的な要因有
- ・その他、国際的な資源制約の高まり

3-2. 地球温暖化問題の現状

我が国の温室効果ガス排出量

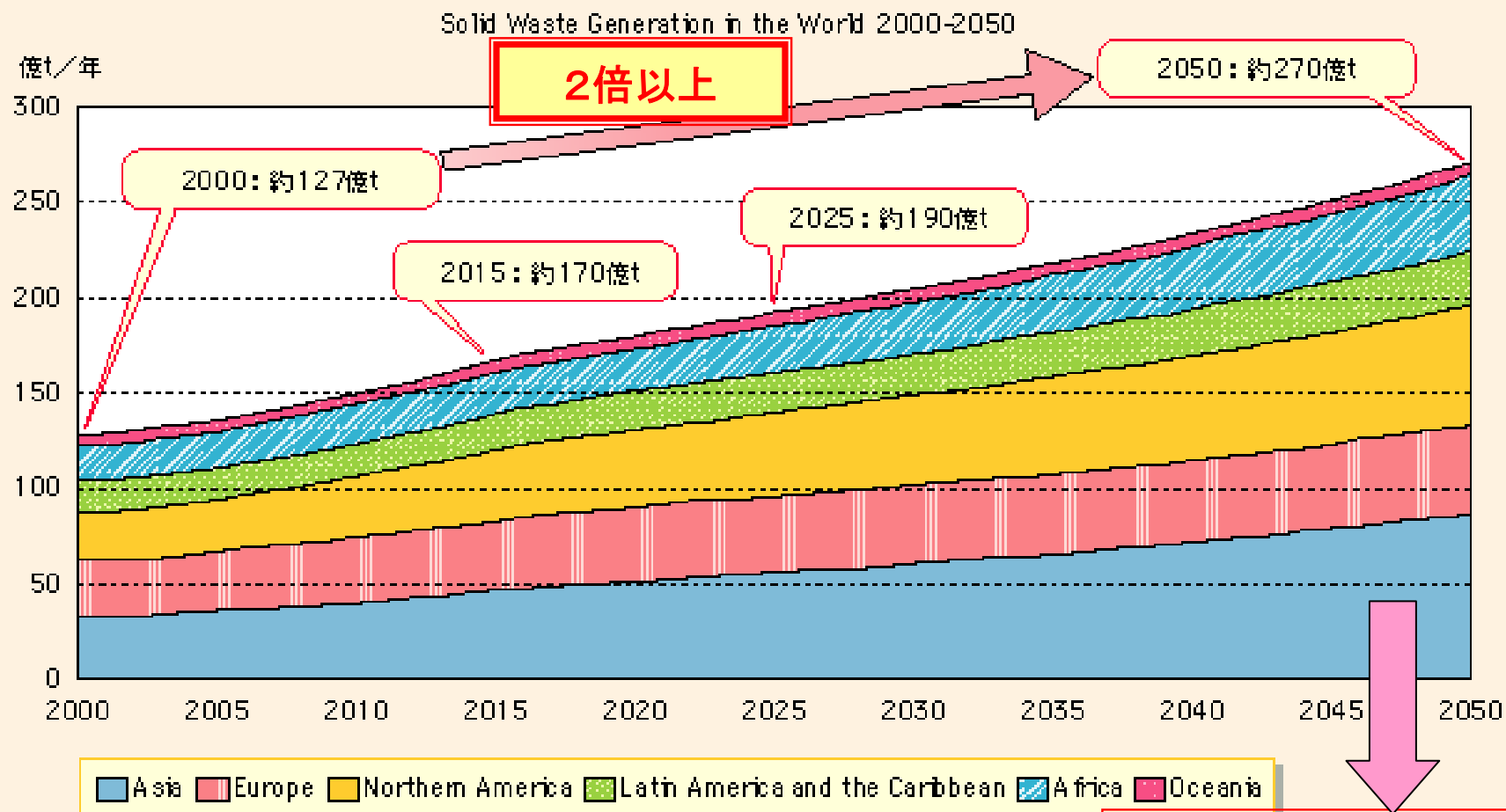
2006年度における我が国の排出量は、基準年比6.2%上回っており、議定書の6%削減約束の達成には、6.8%の排出削減が必要。



出典:2006年温室効果ガス排出量(確報値) (環境省)

3-3. 廃棄物問題 —世界の廃棄物排出量の将来予測—

世界の廃棄物排出量の将来予測

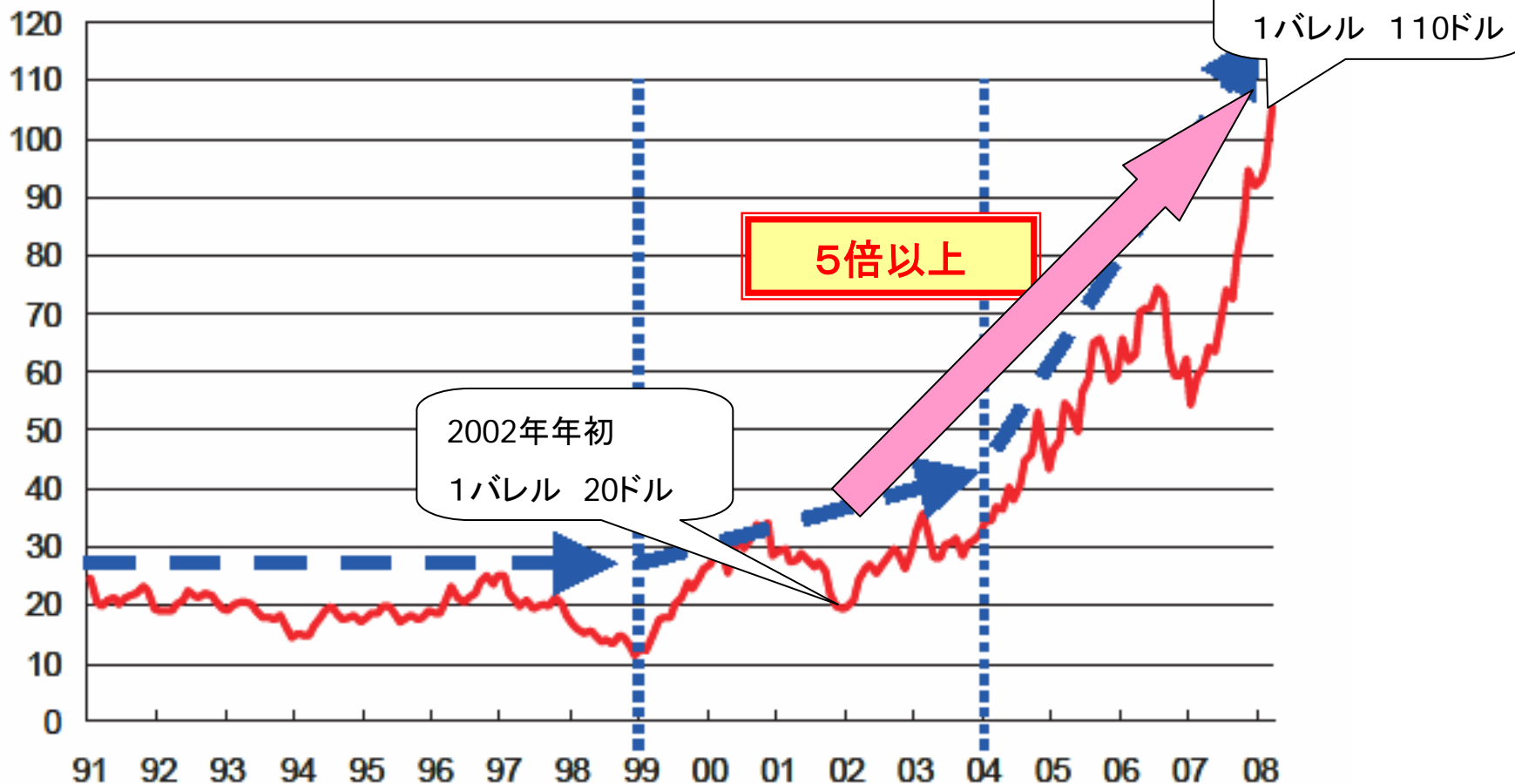


資料：岡山大学田中教授論文

出典：平成19年版 環境・循環型社会白書P53（環境省）

3-4. 原油、食糧等の高騰 ～原油～

図 ニューヨーク原油先物市場の推移(単位:ドル/バレル、月平均)



(出所) 米国エネルギー情報局

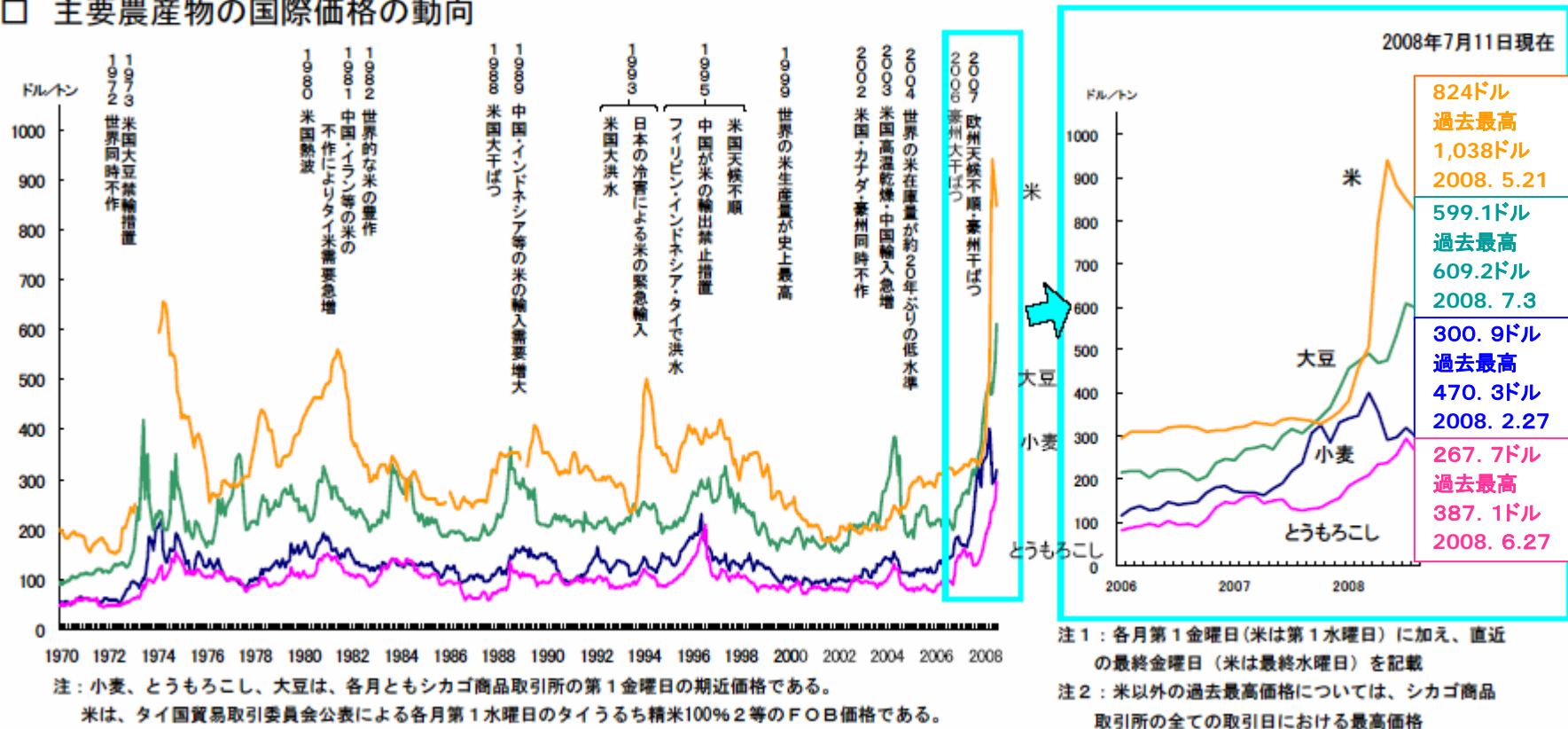
出典:エネルギー白書2008 P2 (資源エネルギー庁)

3-5. 原油、食糧等の高騰 ～農産物～

世界の農産物価格の動向（ドル/トン）

- 小麦、とうもろこし、大豆の国際価格は2006年秋頃より、また、米の国際価格は昨年秋頃より高騰し、それぞれ今年に入って史上最高値を更新するなど、高水準で推移しており、当面、この水準が続くものと見込まれている。
- その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあると言われているが、基本的には、穀物の種類によって差異はあるものの、① 中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、② 世界的なバイオ燃料の原料という食料以外の需要の増大、③ 地球規模の気候変動の影響 といった中長期的に継続する構造的な要因があり、こうした状況の中で、輸出国による輸出規制が広がっていることも影響している。
- なお、米については、農産物の中でも特に貿易量の割合が低く、輸出を少数かつ特定の国で占めている中で、ベトナム、インド等の主要輸出国で輸出規制が相次いで実施されていることが、主な要因となっている。

□ 主要農産物の国際価格の動向

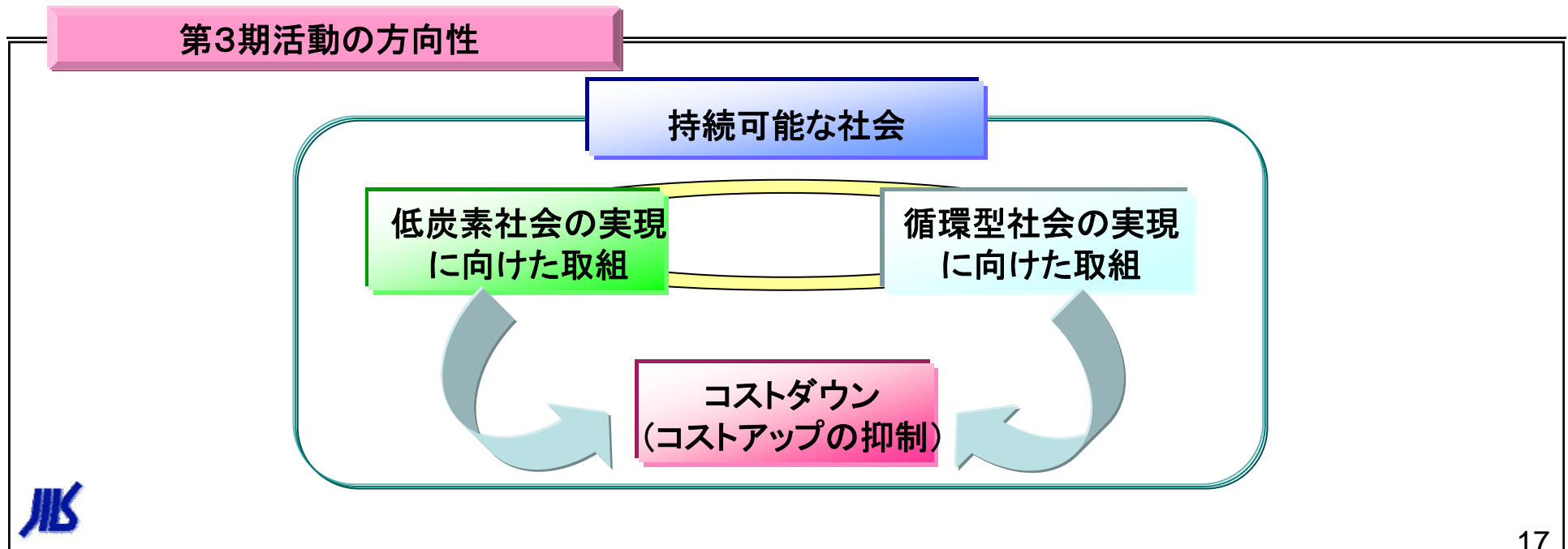
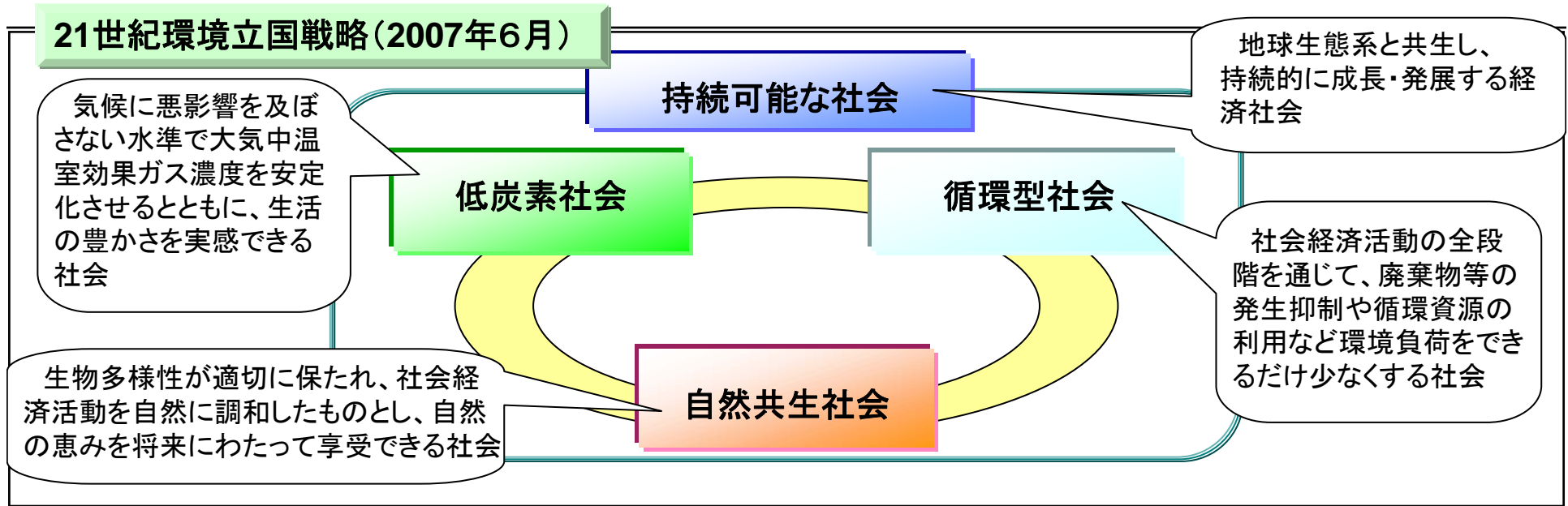


注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。
米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

出典：世界の農産物価格の動向（農林水産省ホームページ）

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_zyukyu_kakaku/pdf/kakaku.pdf

3-6 「持続可能な社会」と第3期の方向性



**第3期ロジスティクス環境会議
活動概要について（案）**

1. 概要

1) 名称

第3期ロジスティクス環境会議

Conference on Green Logistics in Japan (CGL in Japan)

2) 目的

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築

～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

3) 方針

持続可能社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、産官学、発荷主・着荷主・物流事業者間の連携のもと、第1、2期の活動成果を活用しつつ、ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進する。

さらに、昨今の原油、食糧等の高騰といった環境問題と密接な関係を持つ課題に対して、環境会議としての方向性を示す。

4) 目標

ロジスティクス分野における環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、委員会ならびに研究会等の活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指す。

5) 期間

2008年5月～2010年3月

6) 参加対象

(社)日本ロジスティクスシステム協会（JILS）の会員

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を実践していきたいと考えている、製造業、流通業、物流事業者、情報サービス業、調査・研究機関、自治体等の方々。

2. 各組織の役割

1) ロジスティクス環境会議（本会議）

(1) 役割

① ロジスティクス環境会議全体（本会議、委員会、研究会等）の基本方針を定める。

② 本会議で決議すべき事項または企画運営委員会から議案として提示された事項に対する合意形成を行う。

- ③ 合意事項の普及啓発と関係者に対する提言を行う。

2) 企画運営委員会

(1) 役割

- ① ロジスティクス環境会議全体の活動における基本方針案を策定し、本会議に提案する。
② 本会議において合意された基本方針に基づき、活動方針を策定し決定する。
③ 関係者の環境負荷低減活動の推進にあたって、解決が求められる問題、課題について検討する。

3) 研究会および委員会

(1) 役割

研究会：ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバー等からグリーン物流の各種施策の実施事例等の情報交換等を通じて、実践的な改善施策の研究を行う。
委員会：ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を整理し、解決方策の検討や有用となるマニュアル等の作成を行なう。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

(2) 構成

研究会および委員会は、本会議メンバー企業の実務担当者ならびに学識経験者等で構成する。

4) ワーキング (WG)

(1) 役割

企画運営委員会で選定した特定のテーマに関する検討や調査等を実施する。

(2) 構成

企画運営委員会メンバーを中心に、実務担当者ならびに学識経験者等で構成する。
なお、メンバーについては、企画運営委員会で選定することとする。

(3) 実施テーマ例

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査
- ・持続可能社会実現に向けたロジスティクス・グラウンドデザインの改訂
- ・CO₂の帰属に関する検討

3. 2008 年度活動概要

1) グリーン物流研究会

2) 委員会

(1) 設置委員会の決定

下記4テーマについて、第3期申込企業を対象に希望調査を実施し、上位2テーマに関して、委員会を設置することとしたところ、下記2つ(下線部)の委員会設置が決定した。

- ・包装・梱包材の削減・適正化推進委員会 (仮称)
- ・グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 (仮称)
- ・リバースロジスティクス推進委員会 (仮称)

・環境負荷低減のためのシステム機器等に関する検討委員会（仮称）

(2) 包装の適正化推進委員会

(3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

3) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG

4) 省エネ法に係る実態調査

(1) 目的

省エネ法で特定荷主、特定輸送事業者により作成、提出が義務付けられている定期報告書、計画書を収集し、環境会議メンバーにおけるエネルギー使用量や判断基準の遵守状況等の概況を集計、分析する。

なお、本調査は、第2期環境会議 CO₂削減推進委員会で実施していることから、可能な範囲で経年変化の比較も行うこととする。

(2) 2008年度活動計画

(i) 調査実施（2008年8月）

環境会議メンバーに対し、調査票を送付

(ii) 結果集計（2008年9月）

2007年度に取りまとめた内容をベースに集計を実施

(iii) 結果報告（2008年10月以降）

環境会議メンバー等に結果を報告

(3) 進め方

本調査については、前述のとおり昨年度実施していることから、特にワーキング等の設置は行われないが、集計結果の取りまとめ等の段階においては、第2期環境会議 CO₂削減推進委員会で委員長、副委員長をお務めいただいた、増井 企画運営副委員長、高松 企画運営委員らに助言をいただくこととする。

5) グリーンロジスティクスガイドの普及

(1) 目的

「グリーンロジスティクスガイド」の普及により、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やすため。

(2) 2008年度活動計画

- ・国際物流総合展 2008（2008年9月9日～12日）のJ I L Sブースでの配布
- ・グリーン物流パートナーシップ会議での配布等の検討・依頼
- ・その他 J I L Sが実施する環境関連事業の参加者への配布

4. 組織体制

1) 本会議

- 議長：三村 明夫 (社)日本ロジスティクスシステム協会 会長
(新日本製鐵(株) 代表取締役会長)
- 副議長：岡部 正彦 (社)日本ロジスティクスシステム協会 副会長
(日本通運(株) 代表取締役会長)
- 副議長：鈴木 敏文 (社)日本ロジスティクスシステム協会 副会長
(株)イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

2) 企画運営委員会

- 委員長：杉山 武彦 一橋大学 学長
- 副委員長：増井 忠幸 武蔵工業大学 環境情報学部 学部長
- 副委員長：高橋 信直 新日本製鐵(株) 営業総括部 部長
- 副委員長：牛込 達彦 日本通運(株) 環境・社会貢献部 部長

3) グリーン物流研究会

- 幹事：下村 博史 (株)日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員
- 副幹事：鈴木 邦成 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授
- 副幹事：黒坂 真一 (株)ヤマタネ 情報本部 情報営業部 次長

4) 委員会

(1) 包装の適正化推進委員会

- 委員長：増井 忠幸 武蔵工業大学 環境情報学部 学部長

(2) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

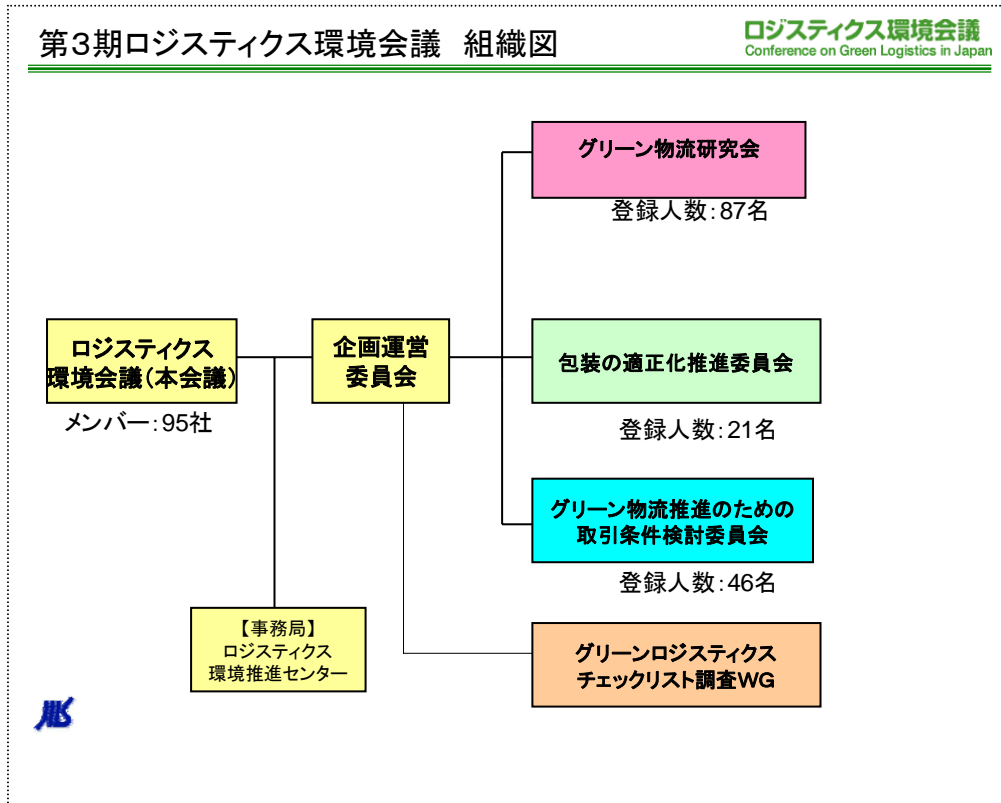
- 委員長：山本 明弘 (株)日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長

5) ワーキング (WG)

(1) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG

- 幹事：矢野 裕児 流通経済大学 流通情報学部 教授
- 幹事：菅田 勝 リコーロジスティクス(株) クオリティ (K A I Z E N) アドバイザー
(株)ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役)

6) 組織図



以上

第3期ロジスティクス環境会議 第1回本会議

研究会、委員会等の概要

1. グリーン物流研究会

1-1. 概要

期 間

2008年5月～2010年1月(約2年)

メンバー

企業・研究機関 87名 (別紙名簿参照)

活動の狙い

研究会の内・外から企業事例、行政施策等
グリーン物流の新しい情報を収集、共有
することで、研究会メンバーによる環境
負荷低減活動を促進する

1-2. 運営体制

□ 幹事

下村 博史

(株)日本総合研究所 総合研究本部 上席主任研究員)

□ 副幹事

鈴木 邦成

(文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科
准教授)

黒坂 真一

(株)ヤマタネ 情報本部 情報営業部 次長)

1-3. 2008年度スケジュール

	開催日	会場
第1回	2008年5月21日(水)	中央大学駿河台記念館
第2回	2008年6月18日(水)	中央大学駿河台記念館
第3回	2008年7月16日(水)	中央大学駿河台記念館
第4回	2008年9月24日(水)	中央大学駿河台記念館
第5回	2008年10月23日(木)	中央大学駿河台記念館
第6回	2008年11月19日(水)	見学会を予定 日程変更可能性有
第7回	2008年12月3日(水)	未定
第8回	2009年1月21日(水)	未定

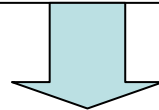
1-4. 2008年度企画案

日程	講演①	講演②	講演③
第1回	オリエンテーション、年間企画案、名刺交換会		日経BP社 「物流に求められる環境対応とは」
第2回	(株)アスア 「エコドライブ活動によるCO ₂ 削減と人材育成」	新日石プラスト(株) 「シートパレットによる物流効率化と環境負荷低減」	日本ビジネスロジスティクス(株) 「グローバルロジスティクス環境下での輸送品質の改善による環境負荷の低減」
第3回	国土交通省 「運輸部門における地球温暖化対策について」	(株)ユニー 「循環型社会形成に向けたユニーの取組」	光英システム(株) 「運輸分野におけるCO ₂ 削減に向けた自動配送計画システムと車載端末活用の事例」
第4回	東京都	住金物産(株)	NECロジスティクス(株)
第5回	トランコム(株)	キッコーマン(株)	・SBSホールディングス(株)
第6回	見学会 <候補案>		
第7回	佐川急便(株)	・ヤマタネ(株)	・山九(株)
第8回	(株)エス・シー・ロジスティクス	・オリンパス(株)	・(株)竹中工務店

1-5. メンバー記入表について

メンバー記入票 質問項目

- 1) 参加目的
- 2) これまで取り組んできた業務
- 3) グリーン物流に関する課題
- 4) テーマ
 - (1) 聞きたいテーマ
 - (2) 助言がほしいテーマ
- 5) テーマ
 - (1) 発表したいテーマ
 - (2) 情報提供可能なテーマ
- 6) 研究会メンバーへの一言



各メンバーの回答内容を全メンバーに配布することで、
メンバー相互の人的交流の一助としていただいた。

1-6. 会場風景



1-7. グリーン物流研究会のブログ

第2回研究会(3/3) コスメティックダメージの改善 - グリーン物流研究会の活動記録です - 楽天ブログ(Blog) - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る
アドレス(D) **http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/**

グリーン物流研究会の活動記録です

HOME DIARY PROFILE AUCTION BBS BOOKMARKS SHOPPING LIST

グリーン物流研究会の活動日記

Calendar
June 2008
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30
<Back This month next>

[PR] 100P★宅配CDレンタル
無料お試しキャンペーン

Keyword Search
ウェブ ブログ お買い物
で検索

楽天ブログから

2008.06.23
第2回研究会(3/3) コスメティックダメージの改善 [(4)包装の省資源化]

研究会・幹事の下村です。先週の第2回研究会では、お三方目として、日本ビジネスロジスティクス(以下、JBLと略称させていただきます)、包装技術部石井様より、「グローバルロジスティクス環境下での輸送品質の改善による環境負荷の軽減」というタイトルで講演いただきました。

○JBL 石井部長様
(1) JBLの概要
・JBLは日本アイ・ピー・エムおよびグループ企業のサプライチェーン管理を担う会社。

(2) コスメティックダメージとは
・コスメティックダメージとは、「製品の機能・構造上に影響しない軽微な損傷」「個装箱の表面に見られる軽微な損傷」のことを言う。
・例えば、個装の「軽微なしわ」「凹み」など。「縦じわ」は「しわ」の典型的なもので、商品を重ねた際の圧力にダンボールが負けてできるもの。ダンボールの強度不足、あるいは内部の空間が原因と考えられる。
・製品に問題が無くとも、製品を受け取るお客様からは「受け取りを拒否」されてしまうことが多い。特にアイ・ピー・エムのビジネスが、お客様との直接取引引きでまなく、ビジネスパートナー経由となったために製品を受け取る「ビジネスパートナー」から返品されることが多くなってきた。返品されると再包装し、再度輸送して納品する。環境負荷も倍増することになる。

ディスカッション http://plazarakuten.co.jp/ 上でディスカッションは利用できません。

スタート 受信トレイ - Mi... 写真 Microsoft O... 第2回研究会く... 100% 11:58

2. 包装の適正化推進委員会

2-1. 運営体制

□委員長

増井 忠幸

(武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)

□副委員長

(* 委員会メンバーより別途選定)

□メンバー(計21人)

SBSホールディングス(株)、オリンパス(株)、キヤノン(株)、(株)コイケ
NPO法人省エネルギー輸送対策会議、新日石プラスト(株)、
ダイキン工業(株)、東芝物流(株)、トヨタ自動車(株)、(株)日通総合研究所、
日本通運(株)、(社)日本パレット協会、日本ビジネスロジスティクス(株)、
(株)野村総合研究所、(株)日立物流、不二製油(株)、富士通(株)、富士物流(株)、
リコーロジスティクス(株)

1) 事例集

「省資源ロジスティクス事例集」(第1期CGL)

「Ⅱ. 事例集 C 包装資材等対策」の中で、①食品・流通、②機械器具・精密機器、③素材(化学・鉄鋼等)で合計13事例を収集

2) マニュアル類

「ロジスティクス源流管理マニュアルVer.1」(第1期CGL)

「2. 包装」において、荷主や物流事業者が現状の包装を見直す際に必要な視点をPDC Aで整理 ⇔他部門、取引先への依頼等は含まれていない。

3) その他

「グリーンロジスティクスチェックリスト」(第2期CGL)

「グリーンロジスティクスガイド」(第2期CGL)

- ・アウトプットの一部として「包装」を取り上げただけであり、「包装」に焦点をあてて検討を進めてきたわけではない。 →内容(量、質)は十分か？
- ・包装に係るパフォーマンスに関する検討は行っていない。

＜本委員会のミッション＞
包装の適正化による環境負荷低減に向けた検討を行う

＜検討テーマ例(パンフレット記載内容)＞

	検討テーマ案
①	自社単独、もしくは発・着荷主、梱包メーカー等の連携による包装適正化事例収集
②	包装に係る実用的な環境パフォーマンス算定方法の検討、普及
③	包装適正化に向けた各主体における役割の整理

2-4. 2008年度の概要

<準備委員会の開催> (2008年6月10日(火) 出席者: 18名)

- 委員会登録メンバーから、包装について抱えている課題、委員会で検討したいテーマなど意見収集

【主な意見】

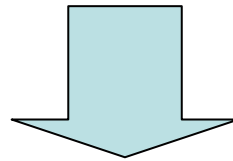
- ・包装にかかわる環境パフォーマンスの算定
- ・包装材の処理等に係る関連法制度への対応
- ・通い箱の運用
- ・取引条件と関連する事項
(カートンダメージ(こすれ等)による受け取り拒否)
- ・省エネ法への対応

- 委員会名称を「包装の適正化推進委員会」に決定

2-5. 今後の流れ

<第1回本会議(7月31日)>

- ・本委員会の活動計画案の大枠を審議、決定



委員会登録は
随時受付

<第1、2回委員会>

- ・活動の方向性、及び具体的な活動計画の策定

3. グリーン物流推進のための 取引条件検討委員会

3-1. 運営体制

□委員長

山本 明弘

(株)日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)

□副委員長

(* 委員会メンバーより別途選定)

□メンバー(計46人)

(* 別紙名簿参照のこと)

輸配送に多くのトラックが必要となり、結果的に多くのCO₂が排出されている背景には、取引条件の影響もあるとされている。

＜取引条件見直しによる環境負荷削減効果推計値＞

－（多頻度小口発注に伴う）多頻度小口配送

- 走行キロ＝▲7,056百万km（年間）

－ 時間指定（納品）

- 走行キロ＝▲3,686百万km（年間）

－ リードタイム

- 走行キロ＝▲2,212百万km（年間）

出典：商慣行の改善と物流効率化に関する調査

（国土交通省 国土技術政策総合研究所の委託によりJILSが実施）

＜本委員会のミッション＞

環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方の研究を行う

＜活動内容例(パンフレット記載内容)＞

	検討テーマ案
①	リードタイムの緩和（延長）による環境負荷への影響と、実施時に発生する課題等の整理
②	取引条件変更による環境負荷改善効果の算出
③	グリーン調達におけるグリーン物流の推進に向けた検討

3-3. 2008年度の概要

<準備委員会の開催> (2008年6月12日(木) 出席者: 24名)

- 委員会登録メンバーから、物流に係る取引所件に関して抱えている課題、委員会で検討したいテーマなど意見収集

【主な意見】

- ・第2期に取りまとめた「取引条件を考慮した環境負荷低減施策の提案ー加工食品をモデルとしてー」の実践に係る検討
- ・物量の波動による車両増
- ・時間指定に係る事項
- ・その他

- 委員会名称を

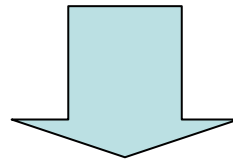
「グリーン物流推進のための取引条件検討委員会」

に決定

2-4. 今後の流れ

<第1回本会議(7月31日)>

- ・本委員会の活動計画案の大枠を審議、決定



委員会登録は
随時受付

<第1、2回委員会>

- ・活動の方向性、及び具体的な活動計画の策定

4. グリーンロジスティクス チェックリスト調査WG

□幹 事

矢野 裕児

(流通経済大学 流通情報学部 教授)

菅田 勝

(リコーロジスティクス(株)

クオリティー(KAIZEN)アドバイザー

(株)ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役))

ロジスティクス領域での 環境負荷低減活動項目を網羅

< 特長 >

・1: **全86項目**のチェック項目

⇒方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらには取引先との連携を意識した項目を網羅

・2: **相対比較評価**

⇒4段階(1. 出来ていない、2. 遅れ気味、努力不足、3. まずまず出来ている、4. よく出来ている)の実施レベル(実施度合い)の策定により、比較評価が可能(自社で経年変化、他社との相対比較)

・3: **取組を進める際のヒントの掲載**

⇒参考情報欄を設け、施策等の行政情報、あるいは優れた企業事例等の情報の掲載により取組を進める際のヒントの掲載

LEMSチェックリスト(111項目)

(経済産業省委託調査
2001年策定、2003年改訂)

発展



4-3. グリーンロジスティクスチェックリスト

特長1

特長2

特長3

グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0

2008/3/31

分類	No.	チェック項目	実施度合い				参考資料・関連サイト
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている	
方針 ① 全社的な取り組み	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	志趣に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へ積極的に公表している。	トヨタ物流事業におけるグリーン経営環境マニュアル(環境エコロジーマネジメント計画) http://www.tosco.or.jp/top/green_management_manual/track_08h.pdf
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が存在しない。	ロジスティクス分野における方針を策定中である。	ロジスティクス分野における方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。	
	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所・構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ事業所に委ねられている。	志趣に加え、各事業所へ定期的に委員会が開催されている。	トヨタ物流事業におけるグリーン経営環境マニュアル(環境エコロジーマネジメント計画) http://www.tosco.or.jp/top/green_management_manual/track_08h.pdf
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない。	志趣の計画を策定している。	志趣の計画を策定し、全社的に周知徹底している。		トヨタ物流事業におけるグリーン経営環境マニュアル(環境エコロジーマネジメント計画) http://www.tosco.or.jp/top/green_management_manual/track_08h.pdf
	5	グリーンロジスティクスに関する教育メニューを整理し、ロジスティクス関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。	グリーンロジスティクスに関する教育メニューが整理されていない。	グリーンロジスティクスに関する教育メニューが整理されているが、教育する部門の従業員への周知や教育を行っている。	グリーンロジスティクスに関する教育メニューが整理されているが、教育する部門の従業員への周知や教育を行っている。	志趣に加え、定期的な内部研修等でチェックしている。	トヨタ物流事業におけるグリーン経営環境マニュアル(環境エコロジーマネジメント計画) http://www.tosco.or.jp/top/green_management_manual/track_08h.pdf グリーンロジスティクスE&Sレポート掲載、グリーン物流環境コース(2/15) http://www.logistics.or.jp/education/mission/track_08h.pdf
	6	海外拠点で、国際物流について会社として統一的に環境対応を定めている。	海外拠点、国際物流について会社として統一的に環境対応を定めていない。	海外拠点、国際物流について会社として統一的に環境対応を定めている。	海外拠点、国際物流について会社として統一的に環境対応を定めている。		
	7	ロジスティクス分野において、法令遵守(環境法・労働法、各種リサイクル法、運輸関係法)の法令の更新に際して取り組みを行っている。	ロジスティクス分野において、法令遵守(環境法・労働法、各種リサイクル法、運輸関係法)の法令の更新に際して取り組みを行っていない。	ロジスティクス分野に関連して法令を遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育を行っている。	ロジスティクス分野に関連して法令を遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育を行っている。	志趣に加え、定期的な内部研修等でチェックしている。	トヨタ 環境協会 http://www.tosco.or.jp/green/taim.html
	8	ISO14000aを取得している(自己宣言報告の活動をしている)。	ISO14000aを取得していない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	ISO14000aの取得に向けて、検討している。	一部の事業所でISO14000aを取得している。	全社でISO14000aを取得している。	日本工業標準化協会 ホームページ http://www.jis.go.jp/www/iso-14000.html
	9	エコアクション21を取得している(自己宣言報告の活動をしている)。	エコアクション21を取得していない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	エコアクション21の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でエコアクション21を取得している。	全社でエコアクション21を取得している。	財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター http://www.e21.jp/
	10	グリーン経営環境を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営環境を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営環境の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でグリーン経営環境を取得している。	全社でグリーン経営環境を取得している。	環境エコロジーマネジメント計画ホームページ http://www.tosco.or.jp/top/green_management_manual/track_08h.pdf

回答欄には実施度合い(1、2、3、4)、もしくは0(該当しない)の5つのうち該当する番号をご回答下さい。

回答欄

【URL】

ロジスティクス環境会議 : <http://www.logistics.or.jp/green/report/08checklist.html>

グリーン物流P会議 : <http://www.greenpartnership.jp/link/index.html>



2008年5月28日

4-4. 簡易診断結果(案) (その1)

グリーンロジスティクスチェックリスト 簡易診断結果

結果の全体が
把握できる

チェックをつけた
点数(1~4点)の
合計点

回答企業の平均点
(合計点÷「1~4と回
答した」設問数)

回答企業の結果

この会社が属する
業種(この例では
製造業)の平均

回答企業全社の平均

回答企業 ○×△電機

業種 製造業

“平均点”から算出した順位

●総括表

		合計	方針	活動	貴社順位
貴社回答	合計	191	96	95	
	平均	2.22	2.34	2.11	
業種平均	合計	181	86.5	94.5	
	平均	2.1	2.11	2.1	3 / 4
全体平均	合計	177.7	81.7	95.9	
	平均	2.07	1.99	2.15	5 / 10

<参考> 偏差値 52.7

86項目全ての結果欄

方針(41項目)の結果欄

活動(45項目)の結果欄

“合計点”から算出した偏差値

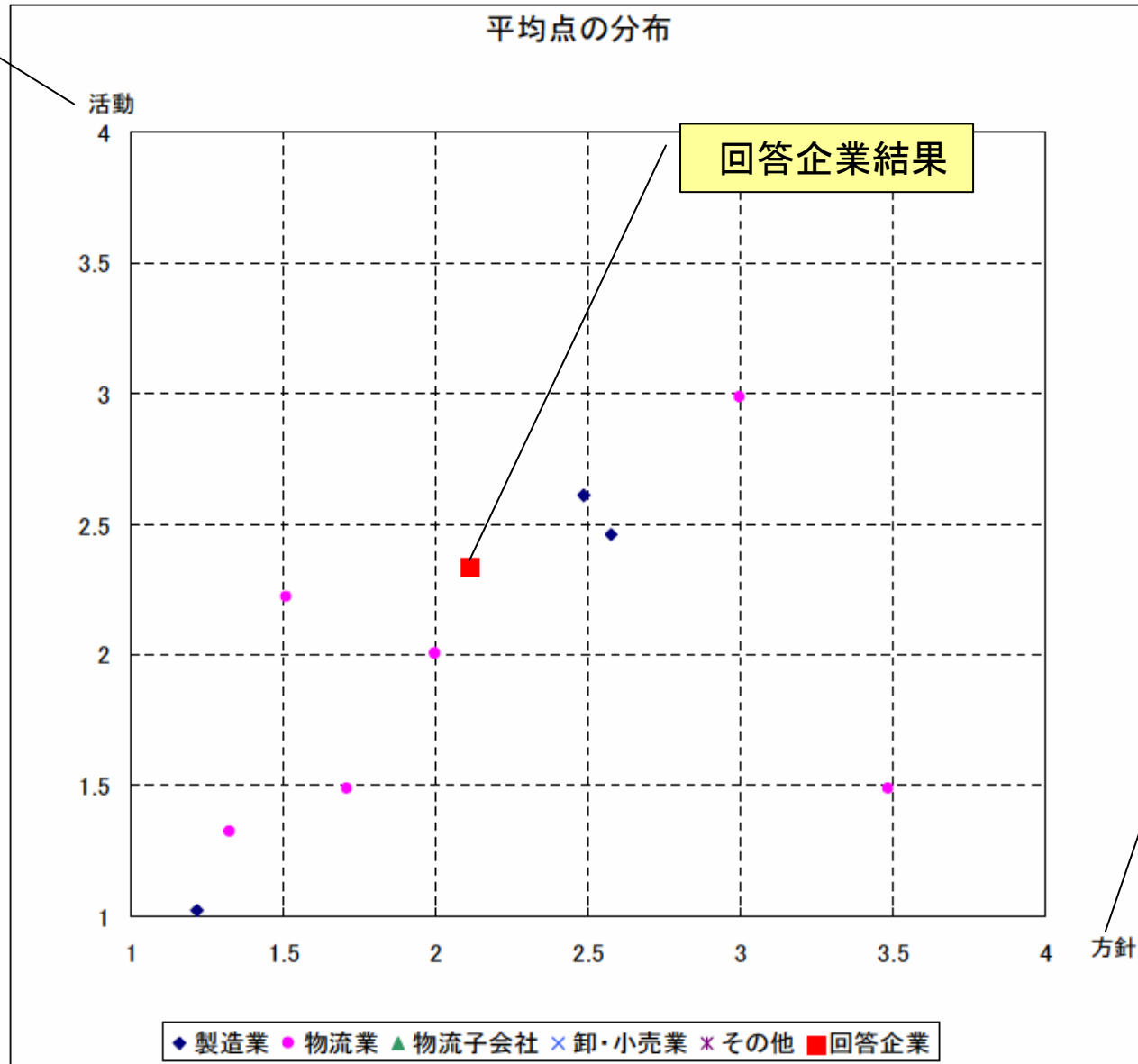


4-5. 簡易診断結果(案) (その2)

自社及び他社の位置づけが把握できる

●平均点の分布

活動の
平均点



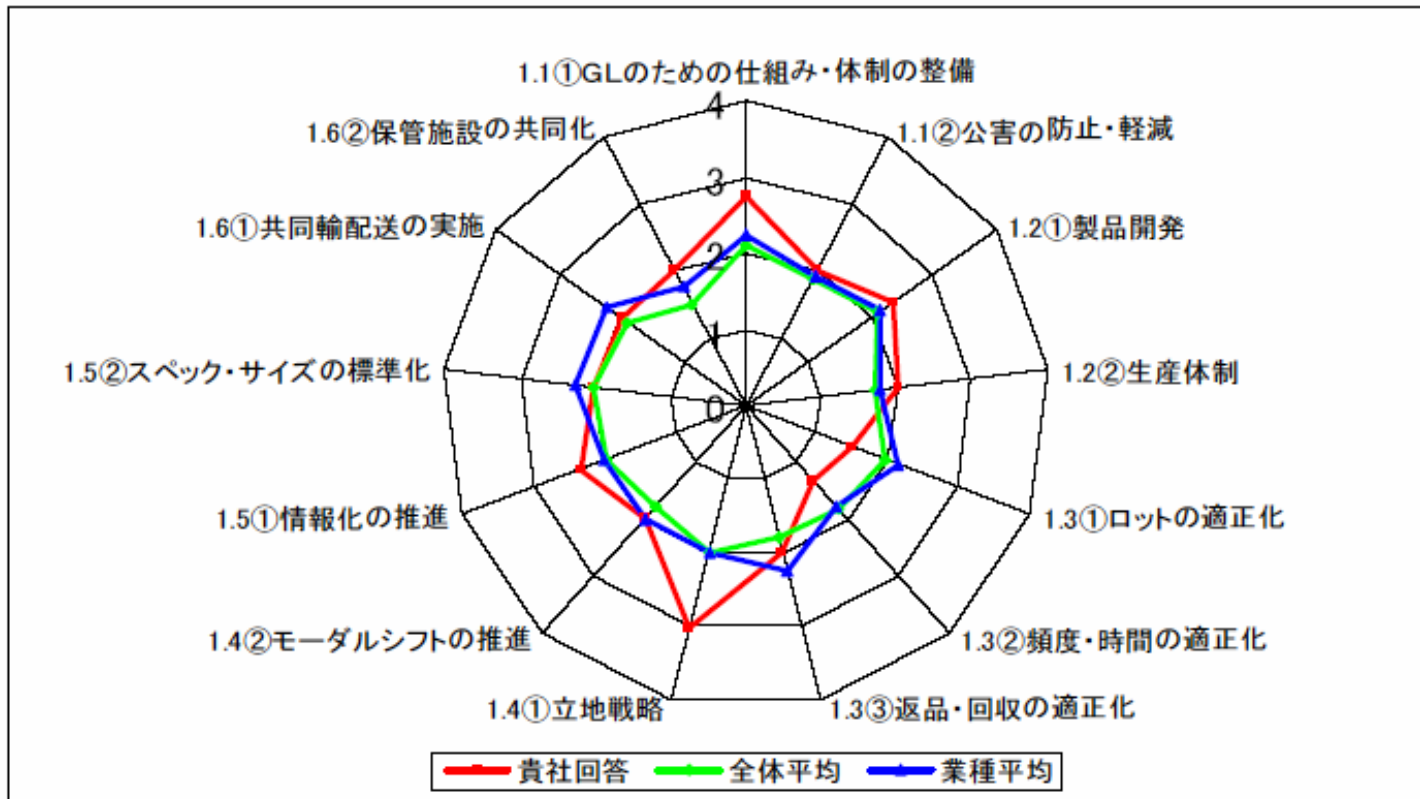
方針の
平均点

4-6. 簡易診断結果(案) (その3)

中分類ごとに平均値を算出し、自社回答、全体平均、業種平均と比較することで、取り組みが進んでいる項目、遅れている項目が把握できる

●レーダーチャート

<方針>



4-7. 今後の予定(案)

2008年7月31日 : 第1回本会議

2008年8~9月 : 調査実施

- ①第3期環境会議参加企業
- ②JILS会員企業
- ③その他企業

2008年10~12月 : 集計、取りまとめ、結果返却

2009年1~3月 : 結果の普及啓発
(報告会の開催、
JILS機関誌等での発表等)

第3期ロジスティクス環境会議 メンバーの皆様へ

チェックリスト調査への御協力のほど、
よろしくお願いいいたします

(調査のご案内につきましては、登録メンバー宛にご連絡いたします。)

情報提供活動について（案）

1. シンポジウム、講演会等のイベントの開催

1) 概要

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

2) 2008年度活動計画

(1) 発表会の開催（実施済）

i) タイトル

ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会

ii) 結果概要

- 日 時：2008年6月6日（金） 13：20～16：50
- 会 場：人事労務会館／東京・港区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：69名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

iii) プログラム

時 間	内 容
13：20～13：25	開 会
13：25～14：10	発表① 【CO ₂ 削減推進委員会 モーダルシフトWG活動報告】 「鉄道へのモーダルシフトのさらなる推進に向けて」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 モーダルシフトWG 幹事 高松 孝行 氏（トヨタ自動車㈱ 物流企画部 主査）
14：10～14：15	休 憩
14：15～15：00	発表② 【CO ₂ 削減推進委員会 燃費向上WG活動報告】 「輸送事業者と発・着荷主の連携によるエコドライブ推進」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 燃費向上WG 幹事 石崎 雅規 氏（東芝物流㈱ 物流技術部 品質・環境管理部 参事）
15：00～15：10	休 憩
15：10～15：55	発表③ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 源流管理分科会活動報告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 源流管理分科会 幹事 矢野 裕児 氏（流通経済大学 流通情報学部 教授） 菅田 勝 氏（リコーロジスティクス㈱ クオリティー（KAIZEN）アドバイザー）
15：55～16：00	休 憩

時 間	内 容
16:00~16:45	発表④ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 取引条件分科会活動報告】 「取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案-加工食品をモデルとして-」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 取引条件分科会 幹事 恒吉 正浩 氏（味の素㈱ 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長）
16:45~16:55	「第3期環境会議の設置委員会の概要と今後のスケジュール」 ロジスティクス環境会議 事務局
16:55	閉 会

* 役職は開催時点のもの

(2) 講習会等の開催

下期（2009年1月から2月）に1回 開催予定

2. 媒体を通じた情報提供

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、以下の媒体を用いて、情報発信を行う。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

行政からの報道発表等を中心とした速報的内容について紹介

<発行済>

Vol.1 2008年5月20日

- ・2006年度温室効果ガス排出量 確報値を公表（環境省）
- ・国土交通白書 2008 を公表（国土交通省）

Vol.2 2008年5月28日

- ・2007年の年平均大気中二酸化炭素濃度が過去最高に（気象庁）
- ・「脱温暖化2050プロジェクト」～低炭素社会に向けた12の方策～を発表（環境省）

Vol.3 2008年6月4日

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流P会議）
- ・エネルギー白書 2008 を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）

Vol.4 2008年6月11日

- ・平成19年度家電リサイクル実績を公表（経済産業省、環境省）
- ・第2期成果発表会開催報告

Vol.5 2008年6月30日

- ・弾力的な鉄道貨物輸送システムのあり方に関する調査報告書について（国土交通省）
- ・東京都環境確保条例の改正（東京都）
- ・平成20年版環境・循環型社会白書を公表（環境省）

Vol.6 2008年7月4日

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流P会議）

- ・環境行動計画2008を発表（国土交通省）
- ・「平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞」の募集について（環境省）

<今後の予定>

月2回程度発行

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

行政施策動向、各委員会の活動状況を集約し、2回発行予定

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 2008年度スケジュール(案)

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の適正化	取引条件検討委員会	チェックリスト調査		
5月			第1回					
6月		第1回	第2回	準備委員会	準備委員会			成果発表会
7月			第3回					
8月	第1回							
9月			第4回	第1回	第1回	調査	調査	
10月		第2回	第5回	第2回			集計	
11月			第6回		第2回	集計	報告	
12月			第7回	第3回				
1月		第3回	第8回		第3回			
2月				第4回	第4回	報告		講習会
3月	第2回							